

2024年度 摂南大学大学院 経済経営学研究所 修士課程 一般入学試験(第2回) 入試問題(専門科目)

志望する専攻分野とそれ以外の専攻分野から1問を選びそれぞれに解答しなさい。

なお、答案用紙は、志望する専攻分野とそれ以外の専攻分野それぞれ別用紙になっているので注意すること。

【会計】

次の設問から1問を選択して解答しなさい。

1. 会計の手続きを「日常の手続き」と「決算手続き」に分けて説明し、各プロセスで作成する会計帳簿の意義(目的)について述べなさい。

【出題の意図】修士課程で会計学分野の研究を行うために求められる、会計学の基礎知識が理解できているかを問う問題である。

【解答例】

会計手続きは日常の手続きと決算手続きに分けることができる。企業は取引が発生すると、取引内容を仕訳のルールに基づいて日付別に仕訳し、仕訳帳を作成する。次に、仕訳帳に基づいて各勘定に転記する日常的な手続きを行う。企業は会計期間(通常1年)の期末に1年間の経営成果をまとめて決算手続きを行う。決算手続きとしては、各勘定を締め切って試算表・精算表を作成し、貸借対照表(B/S、Balance Sheet)と損益計算書(P/L、Profit and Loss Statement)を作成・報告する。

試算表は決算の準備段階であり、記帳する内容によって合計試算表・残高試算表・合計試算表の3タイプがある。試算表の残高情報に基づいて決算修正事項を考慮した精算表を作成する。精算表情報に基づいて、会計期間における経営成績を示す損益計算書と決算日現在の財産状態を示す貸借対照表を作成する。損益計算書は一定期間(1会計期間)における収益と費用の発生額を集計して当期純損益(もうけ)計算することで経営成績を示す財務諸表である。貸借対照表は一定時点(決算日)における財産状態(資産・負債・資本)を示す財務諸表である。

貸借対照表と損益計算書以外にも、決算時に作成する報告書としては、企業の一会計期間における現金の出入りの流れを「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3つに分けて示す「キャッシュフロー計算書」と、製造業の場合は一定期間に製品を製造するためにかかった費用(材料費、労務費、経費など)の内訳をまとめた「製造原価明細書」がある。

2. 決算時に作成する2つの財務諸表(貸借対照表と損益計算書)の定義・目的・構成要素などについて説明し、企業の利害関係者は貸借対照表・損益計算書の財務情報に基づいて何ができるかについて例を挙げながら述べなさい。

【出題の意図】修士課程で会計学分野の研究を行うために求められる、会計学の基礎知識が理解できているかを問う問題である。

【解答例】

損益計算書(Profit and Loss Statement)は一定期間(1会計期間)における収益と費用の発生額を集計して当期純損益(もうけ)計算することで経営成績を示す財務諸表であり、会社の経営成績を評価することが目的である。貸借対照表(Balance sheet)は一定時点(決算日)における財産状態を示す財務諸表であり、資産・負債・資本で構成され、会社の財務状況が把握でき、毎期末の財産状態が把握できるため、会社の財産状態の変化も把握できる。このような2つの財務諸表情報は会社内部だけではなく、会社をめぐる重要な利害関係者である株主・顧客・取引銀行・投資家・税務署などにも公開・利用される。利害関係者はそれぞれの目的で会社の財務諸表情報を利用する。

例えば、内部管理者は財務状態や儲けの情報に基づいて経営管理における改善策を工夫したり、経営戦略を立案したりすることができる。また、投資家や取引銀行などの資金と関連する外部利害関係者は投資意思決定のために会社の財産状態や利益情報を参考にする。税務署は法人税を決めるために、会社の損益計算書情報を用いるなど会社の財務状態やもうけに関する2つの情報会社をめぐる様々な利害関係者に提供される。